

平成二十六年 特別展

道が支えた 阿仁鉱山

平成27年

3月3日(火)~
4月19日(日)

ギャラリートーク

どなたでも聴講いただけます。
(入館料のみ、事前予約不要)

日付 平成27年3月3日(火)13:30~

案内人 今井忠男
(秋田大学国際資源学部教授)

場所 鉱業博物館 2階特別展示室

米の道、
炭の道、
銅の道



真木沢鉱山絵図

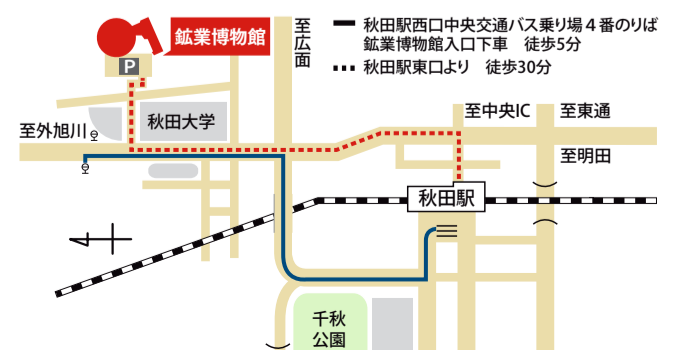
(秋田大学附属図書館所蔵)

阿仁の水無村に近い鉱山で、ここに平賀源内が江戸から精錬の指導に訪れた。

会場 秋田大学 国際資源学部附属 鉱業博物館

〒010-8502 秋田県秋田市手形字大沢28-2 TEL 018-889-2461 FAX 018-889-2465
URL <http://www.mus.akita-u.ac.jp/>

■開館時間：午前9：00～午後4：00（期間中無休） ■入館料：大人100円 高校生以下無料



水無・銀山町の形成

銀山町（新町）の割付け

銀山町は、慶長 19 年に「七十枚金山」の生産に伴って、水無村の一部を町割りし、山師や坑夫の住宅として開発された町です。当時、この町への居住希望者は 1 万人を超えたと云われ、まさにゴールドラッシュ（金採掘による人々の大移動）が起こったと思われます。

木山方役所

銅を製錬するためには、生産する銅の 4 倍程度の大量の木炭を必要とします。藩の木山方は、藩の山林資源を管理するとともに、鉱山へ木炭を供給しました。木山方の役所は水無に置かれ、ここで大量の木炭が管理されていたと思われます。



⑩ 高岡八右衛門の墓

1637 年に阿仁銅山の発祥となる極印沢坑を発見・開発、墓は善勝寺

金・銀の吹分処

七十枚金山やそれ以降の金山、および向山銀山の金銀鉱石は、銀山町で製錬されていました。当時の製錬所（吹分処）は、現在の中学校のグラウンド辺りにあったと考えられています。

この辺りから出土するカラミ（製錬後のカス）には、金が微量（約 1/10 万）に含まれていたことから、昭和 10 年頃には盛んにカラミが採掘され、多くの金が製錬されました。

金鉱
(七十枚山、九両山)



十分の一番所

鉱山集落では、人と物資の出入りが厳しく管理されており、集落の出入り口には「十分の一番所」が置かれていました。ここでは、関税として物資の「十分の一」の金額が徴収されました。銀山町も、鉱山集落とみなされ、下新町の入口（源内坂付近）と畑町の外れの 2 カ所に、十分の一番所がありました。



⑮ 異人館

明治の初めにお雇い外国人技師として来山したメッケルの住宅

専念寺河原の舟場

水無の舟場が手狭になったため、阿仁合駅の裏手、滝ノ沢河口の専念寺河原に、新たな舟場が作られました。明治以降はこちらが主流となり、今の阿仁合駅周辺が倉庫街に発展していきました。しかし、昭和 11 年には阿仁合線が開通し、この倉庫街にまで線路が引かれたため、阿仁川の舟運業は終焉しました。

米蔵

三両川の南側には、米蔵が並んだ御蔵小路があります。また、御蔵小路の上手には、藩の役人の居住地がありました。のちに、ここの住居は明治政府の官舎となり、古河鉱業の社宅になった後も、現在まで官舎と呼ばれています。

② 宮越商店



水無大町の呉服商、明治の頃の建物から往時の繁栄が伺えます